

いろいろ通信

第4号(2018年10月31日)

—未来を生きる村づくり—特定非営利活動法人いろいろ
contact@npo-irori.org <http://www.npo-irori.org/>

浦野 喬、近藤智和、三好正義、飯田朗子

3棟で差し茅を実施 ——南会津町・水引集落

水引集落では、傷んだ茅を取り除き、新しい茅と交換する「差し茅」によって、茅葺き民家の屋根が維持されています。差し茅は例年初夏におこなわれ、今年は6月に3棟で実施しました。

今回の差し茅では、各戸が所有していた茅のほか、2017年11月に当法人が水引集落と共催した「茅刈りツアー」で刈った茅と、2015年まで茅刈りツアーを主催されていたNPO法人山村集落再生塾・藤木良明理事長の所有する茅が使われました。当法人の茅は、刈り取りの際に、赤いビニールテープで目印を付けていました(茅をたばねる荒縄にビニールテープを貼りました)。差し茅の現場で、目印のある茅が実際に使われているのを見て、「微力ながらも集落の景観維持に貢献できてい



るんだなあ」との思いを新たにしました。

今年の茅刈りは11月3日・4日の予定です。

植樹地の山桜の成長

水引集落の南の一角に、100本以上の山桜の若木が並んで立つ山桜の植樹地があります。

この山桜は2012～2014年にNPO法人山村集落再生塾の活動で植えられたもので、当法人も水引を訪れる時には、若木の成長の様子を楽しみにしています。

2018年6月9日、植樹地の草刈りをおこないました。周りの草を刈り、山桜の若木をあらためて眺めると、昨年の秋より枝振りが大きくなっているのが分かります。初夏の葉は力強く茂り、年々の若木の成長を特に実感しました。花も昨年よりも多く咲いた様子です。たくさんの花の下でお花見できる日も遠くないかもしれません。

秋には、冬の間のための雪対策や鹿対策作業も予定しています。雪で折れてしまった枝や倒れそうになっている若木も目につきました。しかし、幹の太さの成長も感じることもできました。

毎年の開花を多くの方が楽しみにしてくれるような桜の広場になることを願います。

<文責・飯田>



田代山山開き登山 わたすげ満開！

2018年6月10日。毎年、この季節の日曜日に田代山の山開きがおこなわれます。町役場の方々や地元の方々も誘導や案内に出ているので、日頃登山の機会が少ない方にも楽しみやすい日です。NPO法人いろいろも、賛助会員の方々などをお誘いし、登山を楽しんできました。

福島県南会津町と栃木県日光市との県境にまたがる田代山は「プリンのような形の山」。山頂の平坦な台地にカラメルソースのような湿原が広がる、なんとも美しい景色です。山頂に湿地が広がる不思議は、雪深い気候とも関係しているようで、水引集落の東端を流れる清流、湯ノ岐川（たむぎがわ）の水源の地です。山開きの日には、シーズン中の山の安全を願って安全祈願祭がおこなわれます。しめ縄を張る斎竹（いみぢ）や奉奠する玉串には、竹や榊（かき）の代わりに山の樹と枝が使われていました。東北には榊が生育していないからとのことですが、その山の安全を祈る場に相応しく素敵だと感じました。

当日はあいにくの天気。意外と急な斜面は、丸太で土留めされて歩きやすい階段状とするなど、丁寧な登山道に整備されていて、植物や景色を楽しみながら楽しく登ることができます。

標高1900mを超える山頂から約100m低いところにある小田代湿原に着くと、山頂へのワクワク感が一層高まってきます。最後の坂の木道を登りきると、目の前の景色が急に開けます。今年は霧に包まれた一面のわたすげ！例年に比べると早い開花だったそうです。きっと四季折々でさまざまな表情を見せてくれるのでしょうね。

田代山の猿倉登山口に最も近い集落が水引集落です。登山客の方が水引集落を通過するとき、ふと懐かしい気持ちになれるような風景がこれからも続くよう、今後も景観維持にかかわっていきたいと思いました。<文責・飯田>



20年ぶりに復活!? サンショウウオ漁 体験レポート

かつて日本各地ではサンショウウオを食べる習慣がありました。いまでも福島県檜枝岐村や栃木県日光市の湯西川などでは燻製が売られているので、ご覧になった方もいるかもしれません。

実は当 NPO が茅刈りをしている水引集落でも、サンショウウオ漁がおこなわれていた時期がありました。その燻製は精力剤として高値で売買され、「金の虫」とあがめられるほどだったといいます。しかし値崩れしてからは漁もおこなわれなくなり、水引でお話をうかがっても、「かれこれ 20 年は誰も漁をしていないのではないかと聞くばかりでした。

「せっかくの伝統が消えてしまうなんて、もったいない！」と思った私は、水引集落で以前、漁と燻製づくりをされていたという M さんに弟子入りを志願。6 月下旬、茅刈り常連の I さんとともに「漁体験」をしてきました。

サンショウウオの漁期は5月中旬から6月下旬にかけて。彼らが生息するのは、水引集落の東を流れる湯ノ岐川の上流部です。幾筋にも分かれた沢の1本1本が漁場で、かつてはそれぞれが各個人の持ち場でした。

今回ご案内いただいたのは M さんの持ち場です。「20 年ぶりに入る」と話す M さんに導かれ、道なき道をゆき、溪谷の斜面を這いつくばって、草木にしがみつきながら登攀していきました。しかも、長さ 50cm ほどの罾を 1 人あたり 5、6 個も背負っているのだから大変です。

「これは本格的な肉体労働だなあ」と思いつつ、到着した漁場は、徒歩 2 時間 15 分の道程の先になりました。

サンショウウオ漁は罾漁です。したがって、こ



▲沢のほとりで休憩しながら登ります

こに罾を仕掛けたとすれば、明日また 2 時間 15 分の沢登りをして、確認しに来なくてはなりません。M さんは「ここに仕掛けたらたくさん獲れるのに」と話されていましたが、翌日のことを思うとためらってしまい、結局もと来た道を引き返すことに。そして沢の最下流で「罾の掛け方」をデモンストレーションしていただくのみとしました。

「5 月だったらこの辺りにもいたかもしれないけど、6 月も末になると、みんな上流に行くからかからないよ」と言われながらも、仕掛けた罾は 8 つ。20~30m ほどの間隔をあげ、150m くらいの範囲に設置しました。



▲沢の岩肌へべりつくように罾を設置しました

翌日、ほんのわずかな期待を胸に、罾の確認のため沢に入りましたが、M さんの予見通りサンショウウオは 1 匹もかかっていませんでした。残念！ 来年はもう少し早い時期に行き、仕掛けやすい下流域で再チャレンジしたいと思います。

<文責・浦野／来年へ続く……？>

-未来を生きる村づくり-

特定非営利活動法人いろり 活動のご案内

特定非営利活動法人いろりは、長年、水引集落で茅葺き民家の保全・維持や環境整備をされてきた「特定非営利活動法人 山村集落再生塾」のあとを受け継ぐかたちで、2016年7月に設立しました。当法人の定款には、活動趣旨として次のように記しました。

〈この法人は、人口の激減、住人の高齢化、産業や社会基盤の変化などにより、伝統的な集落・町並みの構成基盤が変質し、過度に疲弊している地域を支援するための事業を行い、もってわが国の農山漁村および伝統的な町並み、住居の保全・再生に寄与することを目的とする。〉

この趣旨に基づき、山村集落再生塾がおこなってきた水引集落での「茅刈り」を継承しました。また、南会津町館岩地区のファンとして、新春の賽の神、初夏の田代山山開きなどの折にも参加いたしております。今後も水引集落の茅刈りをはじめ、桜植樹地の環境整備などを継続していく予定で、本通信でご紹介した「サンショウウオ漁の復活」のような新たな試みも模索してまいります。

上記の活動趣旨にご賛同いただける方は、ぜひ茅刈りなどのイベントにご参加ください。また、賛助会員（年会費1口1,000円）としてご支援いただけると嬉しく思います。

何とぞ、よろしく願い申し上げます。

★賛助会費振込先

銀行名：ゆうちょ銀行 支店名：〇一八（ゼロイチハチ）支店

種目：普通預金 口座番号：9271303 口座名義：トクヒ）いろり

※お振込後ご一報くださると助かります。イベントなどのご参加時にお支払いいただいても構いません。

★2019年の予定

1月 賽の神（湯ノ花地区、前沢地区）

5月 お花見（水引地区）

6月 田代山山開き

お問い合わせは、特定非営利活動法人いろり（担当：浦野・近藤・三好・飯田）まで。

メール contact@npo-irori.org ホームページ <http://www.npo-irori.org/>

facebook ページ <http://fb.com/npo.irori/>